

平成30年度 第3回千歳市公立大学法人評価委員会 議事要旨

- 1 日時 平成30年11月8日（木） 14時から15時35分まで
- 2 場所 千歳市役所議会棟大会議室
- 3 出席者
 - 【委員】 委員長 佐伯 浩
 - 委員 小川 恭孝
 - 委員 福村 景範
 - 委員 櫻井 隆
 - 委員 千葉 崇晶
 - 【千歳科学技術大学】 川瀬学長
 - 【千歳市】 企画部 伊賀部長
 - 企画部（公立大学法人化担当） 佐藤次長 松崎主幹 前田主査

- 4 傍聴者 3名

5 会議次第

- ・開会
- ・議題
 - （1）中期目標（案）について
 - （2）中期目標（案）に対する大学の取組方針等について
 - （3）その他
- ・閉会

6 会議の概要

第2回評価委員会の意見を踏まえ修正した中期目標（案）の修正内容について、事務局が説明する。また、中期目標（案）に対する大学の取組方針等について、千歳科学技術大学の川瀬学長に説明をいただく。

本日の委員会において、中期目標（案）について修正意見が出たことから、事務局で修正を行うこととした。修正後の中期目標（案）の確認を委員長が行った後、当該中期目標（案）を適当であるとする旨の意見書を、委員会として市に提出することとした。

次回委員会は中期計画（案）と役員報酬等の支給基準を議題として予定し、千歳科学技術大学に出席を求め説明いただくこととした。

議題（1）中期目標（案）について

事務局から第2回評価委員会の意見を踏まえ修正した中期目標（案）を説明し、委員から意見を伺った。また、第2回評価委員会で出された質問事項について、確認した内容を説明した。

【事務局】資料2で、修正箇所の説明をします。左の欄が前回の委員会で示した中期目標(案)、右の欄が修正案、下線部分が修正箇所である。

1 ページ中段、「基本的な目標」の「人材育成」について、社会が求めている人材は、国際化に対応できる、国際的視野を持った人材であること、また千歳には国際空港である新千歳空港があることから、グローバルな視野を持った人材を育成する、とうたった方が良い、というご意見がありましたので、「国際社会の発展に貢献する人材の輩出を目指す」を、「国際社会の発展に貢献するグローバルな視野を持った人材の輩出を目指す」に修正した。

1 ページ下段、(1) 中期目標の期間について、評価委員会からの意見ではないが、来年の春、皇位継承により年号が変わることから、「平成31年4月1日から平成37年3月31日までの6年間とする」を、「平成31年4月1日から平成37年3月31日まで」の下に「(2019年4月1日から2025年3月31日まで)」を加え、平成表記の下に西暦の表記を併記する形とし、期間が分かり易いようにした。

2 ページ下段、「(2) 教育に関する目標」の「ア 学部教育に関する目標」について、前回の会議で、千歳市の公立大学として地域のことを学ぶ、という視点は理解できるが、学問として「千歳学」と表示されると、具体的にどのようなことを学ぶのかイメージが湧かない、というご意見をいただいた。市では、学部教育に千歳を題材とした授業を取り入れ、科技大で学ぶ学生に千歳のことを知ってもらうことを公立化に当たっての目標の一つとして考えていることから、社会人基礎力を養う学習の一環として、千歳を題材とした授業科目を導入する、という部分は目標として掲げたいと考えている。そのため、「千歳を知り、千歳を身近に感じる「千歳学」など、地域を題材とした授業科目の導入などにより」としていた部分について、「千歳を題材とした授業科目の導入などにより」とし、目標を達成するためにどのような科目を実施するか、具体的な取組内容については、中期計画において記載することとした。

2 ページ下段、「イ 大学院教育に関する目標」について、前期課程では、コミュニケーション能力に加えて、多くの人に対して説得力のある説明が出来るプレゼンテーション能力も必要である、というご意見をいただいたことから、「十分なコミュニケーション能力」の後ろに、「及びプレゼンテーション能力」という文言を加えた。

3 ページ上段、後期課程については、ドクター修了者に対し企業が強く求めているのは「柔軟性」である、というご意見があったことから、「先導的な役割を果たせる人材」を「柔軟性をもって先導的な役割を果たせる人材」に改めた。

3 ページ中段、「(4) 学生及び卒業生への支援に関する目標」について、科技大の分野とマッチする地元企業が多くないことから、インターンシップの拡大の対象を地元企業に限定することなく、学生が就職を希望する企業とのインターンシップが可能になるようにすべきではないか、というご意見をいただいた。市としては、インターンシップを通じた地元企業への定着も推進したいと考えていることから、「地元企業を含め、幅広い分野におけるインターンシップ拡大」という表現に改めた。

3 ページ下段から4 ページ上段にかけて、「3 地域社会等との連携・協力に関する目標」の「(1)」の「イ 地域連携・地域課題の解決に関する目標」について、目標のタイトルに対して、文章の構成が分かり難い、まずは市と大学で地域の課題について話し合う組織を大

学につくり、そこから地域と連携し、地域の課題を解決する、という流れなのではないかというご意見をいただいた。そこで、全文を改め、「科技大が有する人材と知恵を千歳のまちづくりに展開し、市及び市内の各種団体、企業等と連携して様々な分野における地域課題の解決に向けた取組を行い、地域の発展に寄与する。」とした。この目標達成のための具体的手段として、地域連携センターなどの設置や、スマートネイチャーシティちとせ構想の取り組みなどを考えているが、それらについては、中期計画に記載することとした。

4 ページ中段、「(3) 教育機関との連携に関する目標」「ア 市内高等教育機関との連携に関する目標」について、こちらは評価委員会からの意見ではないが、公立化後も、市内の他の高等教育機関である、日本航空専門学校と北海道千歳リハビリテーション大学とは、高等教育機関として対等な立場であることから、「核となる」という表現よりも「中心的な役割を担う」という表現の方が適切であると考え、「高等教育機関の核となって」を「高等教育機関の中心となって」に改めた。

5 ページ中段、「(3) 人事制度と人材育成に関する目標」の用語説明番号については、4 ページ上段の「スマートネイチャーシティちとせ構想」の用語説明を削除したことによる番号の繰り上げである。

5 ページ下段、「6 財務内容の改善に関する目標」「(1) 自己収入の確保に関する目標」について、これからの大学運営においては、寄附金の獲得も重要となってくることから、外部研究資金の内訳について、寄附金も含む形で例示し、明確化した方が良くはないかという意見をいただいたことから、「外部研究資金」を「科学研究費助成事業、共同研究、寄附金などの外部研究資金」に改めた。

5 ページ下段、「(2) 経費節減に関する目標」について、予算の統制を受けて適正に財務運営を行う、ということを確認に記載した方が良く、というご意見をいただいたことから、「業務運営の点検を行い、公立化と合理化により経費の節減を図る」を「業務の点検及び精査を行い、適切に予算を配分するとともに、効率的かつ合理的な予算の執行により経費の節減を図る」に改めた。

6 ページ中段「8 その他業務運営に関する重要目標」について、人に関する目標が先にあるのが望ましいというご意見をいただいたことから、(2)と(3)の順番を入れ替えた。また、9月に大きな地震があったことを踏まえ、そういった災害などにも対応するという事を明確に打ち出すため、「安全衛生管理に関する目標」に「危機」というキーワードを入れることが望ましいというご意見をいただいたことから、「安全衛生危機管理に関する目標」に改めた。中期目標の修正案の説明は以上である。

次に、前回の会議でいただいた質問事項について、説明します。

資料2、3 ページ上段「(3) 研究に関する目標」に関連し、科研費の採択実績についてご質問があった。平成30年度新規採択された3件のうち、基盤研究Bが1件、基盤研究Cが2件、平成29年度は基盤研究Cが4件、平成28年度は基盤研究Cが3件となっている。また、科研費のような競争的外部資金の獲得実績が人事評価などに反映されるのか、というご質問があった。教員の人事評価は「研究実績、教育実績、大学運営・社会地域貢献等」の3項目について行っており、給与に反映されることになっている。「研究実績」の項目において、競争的外部資金の獲得実績について評価されている。

4 ページ上段、「(2) 産業の振興に関する目標」について、学内発ベンチャー企業に対して、補助金など、大学における後押しをする制度があるかどうかについては、補助金などの支援制度はないが、共同研究や研究員の受け入れなどを通じて、技術開発力の向上に対し、支援・協力を行っている。

4 ページ中段、「(3) 教育機関との連携に関する目標」について、苫小牧高専からの編入者について、毎年何名かいるという説明をしたが、確認した所、過去5年については編入者の実績はないということだったので訂正する。

4 ページ下段、「4 国際交流に関する目標」について、現在科技大が提携している、3つの海外大学との授業料免除の協定を確認した所、韓国の全南大学（チョンナム大学）は全額免除、同じく韓国の湖南大学（ホナン大学）はその都度協議、ドイツのポツダム大学は、授業料の10%を負担する、という協定になっているとのことである。

6 ページ中段、「(1) 法令遵守及び人権の尊重に関する目標」について、現在のハラスメントなどへの対応窓口の設置状況については、ハラスメントを未然に防止するために「学校法人千歳科学技術大学ハラスメント規程」を設け、学内ハラスメント委員会を設置している。また、学生と教職員向けに、それぞれハラスメント相談窓口を設けている。

【委員長】 ただいま事務局より中期目標の修正案について説明がされたが、この内容についてご意見ご質問等あればご発言をお願いします。

（委員からの質疑等発言なし）

よろしいですか。それではご質問等ないということなので、中期目標についてはこの修正案どおりとすることとしたいと思いますが、如何ですか。よろしいですか。

（委員各位から了承の返答あり）

それではただいまの案、これで了承いただいたということにいたします。どうもありがとうございました。

議題（2）中期目標（案）に対する大学の取組方針等について

千歳科学技術大学 川瀬学長が、パワーポイントにより公立千歳科学技術大学の教育・研究・地域貢献について説明を行った後、質疑応答を行った。

【委員長】 今説明いただいた内容について、ご質問ありましたらご発言をお願いします。また、学長への質問のほか、中期目標についての修正などの意見もあれば、併せてお願いします。

【委員A】 タイトルに教育研究、地域貢献と書かれているが、これはなかなか難しいと思うが、先生方や、お金、時間割合など、そういう点について、教育にどれ位、研究にどれ位、地域貢献にどれ位というのは、現状分析されているのか。また、それに向かって目標みたいなもの、例えば先生の3分の2は教育に、4分の1は例えば研究に、残りは地域貢献など、何かそういう目標のようなものがあるのか。研究がなかなか進んでいないというようなお話をされていたが、何かそのような割合みたいなものがあって、目標がおありなのかどうか伺いたい。

【学長】 数字で言うのは非常に難しいが、目標に近い、あるいは大学として、先生にこの位で頑張ってもらいたいと言っているものはある。この3項目に対応する項目で教員の評価を行っている。3項目について評価を行い、それを最終的に三つ合わせてABCと付けていくの

だが、その時にウェイトを付けている。今は10のうち5が教育、研究は2、地域社会貢献は3、というふうに行っており、人によっても違うが、一つの目途と考えている。公立になり、きちんと動き出した時には、この先生は研究主体、研究でぜひ頑張りたい、というような採用もしたいと思っているが、今はまだそこまでは見通せない、教授は教育・研究と地域社会貢献については均等に評価する予定、という言い方で見直しをするということのアナウンスしている。また、准教授や助教などの若い先生に関しては、その先生の特性によってウェイトを変えることを考えている。例えば、さきほど教育5と言ったが、自分はぜひ研究を一番やりたいということであれば研究を5、教育を3にして、地域貢献を2にするなど、そういうこともできるようにする。従って、教授に上がるのはかなりハードルがあり、3つバランスよく活躍しないと、なかなか教授に上がれない。ただ、若いところで頑張ってもらうには、得意な所をきちんと評価できるような体制にしていきたいと考えている。

【委員B】 今の話と関連するのだが、教育研究、地域貢献というのは、ある意味お互いに少しずつオーバーラップしているのではないかと考えている。例えば最後の方でご説明いただいたスマートネイチャーシティのところで、eラーニングなど、今持っている技術、スキルでやるというよりは、何か新しい付加価値のあるものの研究を試験的にやってみる、環境保全なども、そのような切り口で、地域サービス、地域貢献にもなるが、研究の素材でもあるというような、オーバーラップしているのが、あるべき姿なのかなという気もするのだが、その辺について、学長は如何お考えか。

【学長】 教育と研究はかなりオーバーラップしており、切り離すのが難しい。例えば、スマートネイチャーシティで課題をきっちり見付けて、それに取り組むというのは、そのリーダーはやはり先生になる。先生が色々なプロジェクトを考え、その中の分担者として、学生も入ってきて教育の一環でやるところも出てくると思われる。eラーニングなども、子どもにプログラミング教室をやるというのは研究というよりは学生のフィールドワークの類になるが、先進的なeラーニングという意味では、例えば、CBT、コンピュータベースドトレーニングで、学習者の出来、不具合を見て、それで自動的に次に出てくる問題のレベルが変わってくる、同じ問題が繰り返し出てきてしまうと2回目は簡単に解けるようになるので、普通のeラーニングに比べると一桁以上多くの問題を作り、学習履歴を見ながらどうやって動かしていくかなど、そういうシステムを開発する、これは研究の一環ということで行っている。そういうところで研究と教育というのは、特に大学院では半々だと思うし、学部の卒業研究は教育に近いだろうと考えるが、言われたとおりのところはある。

【委員C】 良い学生をいかに集めるかということ。一般入試で180名、AOと推薦入試を合わせて60名。一般入試については、それなりの試験を受けていることから学力レベルというのは保証されているかなど。AOと推薦入試ですが、推薦入試については、結局、高校の内申書、これで判断することになるのかなど考えるが、それで合格という判断をした場合は、受験生の方にはほかに行かないでくださいと、そのような縛りをするのかと思うが、内申書である程度の学力判定が出来ると。それからAO、これは数学程度は試験を実施されるということだが、どの程度の学力を持った学生をとれるのかなど。その辺について推定なりお考え

をお持ちでしたら教えていただきたい。

【学長】2020年もそうだが、2019年から、おそらく19年、20年、公立の1期生、2期生、3期生ぐらいまでは、やってみないと分からないところがある。例えば推薦入試で言うと、既に今年の推薦については、高校の評点が3.5以上という条件に対し、4以上の学生も多くなっている。去年までに比べると、高校の評点がかなり高い学生が来ており、高校の中で応募者が多かったのか、高校の先生がそういうことを意識したのかはよく分からないが、レベルは上がってきている。今後、高校の評定の条件も今までより上げることを考えている。また、基礎学力試験をするのは推薦入試の方であり、推薦入試の方で何故数学をやるかという、やはり今までのデータから見て、数学がひどく苦手な学生は途中でドロップアウトしてしまう確率が高いという相関が見えているので、逆に入ってきて本人が困るのではないかと、ということで一回チェックを入れることにした。AOの方は学力検査はしないが、小論文を書かせるのと、eラーニングを課すことにしている。eラーニングを、これだけの期間にこれだけのことをやりなさい、というのを課して、我々はその学習履歴を見ることができるので、きちんと真面目に取り組んでいるかどうか、学ぶ姿勢を見ることができる。それからAOなので、学生が実験を行ったプロセスなど、色々なところで、これなら大丈夫そうだという学生を入学させたいと考えている。AOも従来30人の枠があったが、18人にしている。今年の入試は一般とセンター試験で135人だが、今回の案では180人になることから、一般入試の割合を増やすことである程度以上の学力で入ってくる学生が増えることを期待している。

【委員C】私の理解が間違っていました。数学は推薦入試について行うのですね。失礼しました。もう一点よろしいですか。国際会議を実施されているということだが、国際会議、インターナショナルフォーラムというのは、どういうテーマで開催されているのか。

【学長】国際会議は特にここ最近は大学院の学生の教育を一つ大きなターゲットにしようということで、英語での講演は10件以下である。半日はポスターセッションで、大学院の2年生はみんな出すように、出来れば1年生も出すように呼びかけている。それから高専の学生が来てくれたり、従来は、北大の学生も来てくれたりというように学生がポスター発表のスタイルで英語で発表する。それらを審査してポスター賞というものも出しており、大学院生の教育の場としている。テーマは一応決めており、今年の場合は「コネクティド」をキーワードにして基調講演はImPACTのリーダーの山口さんに来ていただいて量子コンピューティングの話をしてもらった。内容は難しく、学生は聞いてもよく分からなかったかと思うが、こういう世界もあるのかというのも、一つの教育かと考えている。

【委員A】地域貢献の中で地元企業との繋がりというのも非常に大事であると思うが、科技大がどんなことをしているのか、我々の業種と関係あるのかどうか、なかなか繋がりが持てない。提案のような形になるが、中期目標の中に、地元の企業との間で、例えば出前講座のような、科技大がこんなことをやっている、というようなものを市と一緒にしながら、どこかの場で色んな企業を集めてもらい、プレゼンしていただくと。一回では済まないと思うが、何回かやっていくうちに、それではこんなことを科技大にお願いしようか、というようなネタが出てくるのではないかと思う。先生方は自分で下りていくのは大変だと思うので、事務

局の方や千歳市の方が、こんなことをやっているというのをPRして、より密接な繋がりの方を作った方が良いのではないか。その中から、どんな研究をお願いしよう、共同研究をしましょう、一緒に論文を出しましょうとか、そういうのが出てくるのではないかと考える。是非一つ何か目標の中に入れていただくとありがたいという気がする。千歳市も色んな企業が立地してくるので、そういう方にもPRになると考える。

【学長】 地域連携センターというのが一つの地域の繋がり機関であり、そこでそのような地域連携ネットワークを作ることを計画している。先ほどの中期目標の中に高等教育機関の中心となって、という言葉があったが、そういう教育のネットワークもあれば、工業クラブなどを中心としたネットワークなど、そういうのを色々作り、ぜひその中で、今言われたようなことをやっていきたい。

【委員A】 どんどんPRすることが大事であると考え。私も企業にいて、お客様のところに自社商品売り込みにいくには、プレゼンテーションをするしかない。何とかプレゼンの機会をくださいとって、プレゼンさせてもらう。向こうの人は最初は聞く気はないが、何回も何回も続けていくと、4、5回目あたりから、それじゃ、こんなことをちょっとお願いしようかという話も出て来る。しつこく諦めずにやっていくことが、地域のためにもなるし、大学のためにもなるのではないかと考える。よろしくお祈いします。

【学長】 ありがとうございます。ぜひやっていきたいと思ひます。

【委員D】 先ほど、教育、研究、地域貢献で評価するという話だったが、教育の評価はどのように行っているのか。

【学長】 教育の評価については、企業であれば上司が部下の行動を見て、点を付けるのが一般的と思うが、大学はそういうのには馴染まないで、出来るだけエビデンスをベースに評価している。例えば、学生数をどのぐらい面倒を見ているか、基準は何人というのを決めて、それを何人上回ったら一人につき何ポイントとか、講義のコマ数とか、あとは授業評価も反映している。授業評価はなかなか難しく先生からは色々意見も出るが、平均のある一定の幅を基準に、それより明らかにこの人は良い、という人にはプラス点を付けるなど、そのようなことをやっている。

【委員D】 その授業評価はどなたか判断する人がいるのか。教育内容とか。

【学長】 授業を受けた学生が評価している。

【委員D】 北大でも毎年、最終授業の日に、アンケートを取っている。30問位で、1分位で書けるようになっており、これが大変正確である。学生は毎年変わるが、先生が同じことやっていても、ほとんど変わらない。いい先生は益々よくなることが多いが、悪い先生が伸びていった例はほとんどないというのが結論で、学生から見る授業評価というのは非常に正しい。学生は毎年変わっていくという意味では、学生の評価というのは非常に正確だということ。大学院になると、教育だけでなくプラスアルファの方の評価があるのでしょうか。研究の方は何か一つの標準形があるのか。

【学長】 研究は、まずは単純に論文の数、外部資金をどのぐらいの金額を取っているか、それから、研究ベースでの学会の役職などもポイントにしたり、また、受賞をポイントにするなど、かなり細かくカウントしている。

【委員D】それは給料には反映されるのか。

【学長】している。4、5年位前からやっており、評価のレベルにあわせて年間一定額を手当に追加している。

【委員D】プラスアルファがあるんですね。国立大学は、昔は給料は一年毎に一ランク上がっていたが、今は点数で、ある先生には1点しか付かなくて、ある先生には7点付くこともある。それでどんどん差がついていく。大学の先生はお互いあまり話さないで、気付かないで終わっているが、現実はそのようである。教育、研究、地域貢献については、多分、学部長の先生は考えることなく、学生による教育評価、研究は論文の格と数、それに学内学外の貢献に基づいて評価が可能となっている。かなりドライになってきている。

それともう一つお聞きしたいのは、理事者側というか、大学の執行部と先生方との雇用の関係はどうなっているのか。例えば国立大学などでは、よく裁量労働制など色々あるかと思うが、その辺りは。

【学長】大学の先生にも労働基準法を当てはめるべきだというような動きもないわけではないが、今のところ全くそういう形態は取っていない。

【委員D】裁量労働制で、最低でも講義の義務はあるが、研究などはどこでやっても良いということになるのか。

【学長】そうである。授業が最低限の義務で、論文なり研究なりは、アウトプットでききほどの評価に反映する。

【委員E】地域貢献に関してお聞きしたい。設立が公設民営ということで、他の私立大学よりは千歳市にそれなりに教育研究以外に活動を行ってきたということだが、今度、公立になって、税金を使うのでより市民にわかるような形での活動が今後求められると思う。大学が市の政策の課題とか、あまりイメージが浮かばないが、市役所の方も大学を使っていくということが必要だと考える。そこで、今後、公立になってどのように地域貢献が変わっていくのか、そんなすぐには変わらないと思うが、今でもやっているのだから何か具体的なビジョンがあれば教えていただきたい。大学と市、あとは産業界や他の大学などを巻き込んでどのような取組で活動していくか、これは大学だけの答えでは当然出来ないと思うが、その辺りの連携はどのようにお考えか。

【学長】全体的な地域貢献ということでいうと、先ほどのスマートネイチャーシティちとせ構想自体がそういうことである。公立大学になったときに地域貢献をより強く見えるようにする、その構想をスマートネイチャーシティちとせということでまとめた。スマートネイチャーシティちとせの取組で千歳をブランド化できないかと考えている。「千歳」というと、「新千歳空港」というイメージが先に湧くのではなく、「スマートネイチャーシティちとせ」からは、観光ですごく有名だとか、あそこは教育力に優れていて子どもを連れて行っても大丈夫そうだとか、そういう、その名前を聞いたときに、空港だけではなくその他のいいイメージが湧くような、千歳自体をブランド化するような、そういうところまで究極は行けると良いね、ということの中では話している。まだそれを大きく言うところまでには大分道のりがあるとは思いますが、そういうことを考えている。個別の話で言うと、先ほど言われた高等教育の中心となってという類も、まずは、ネットワークを作って色々一緒にどういうことが出来

るかということを探求していくというところからだろうと考えている。既にリハビリテーション大学とは、よさこいのチームにリハビリの学生と一緒にやっていっているとか学生レベルでは交流が始まっている。大学組織同士でどういう連携が出来るのか、これから色々検討していきたいと考えている。

【委員D】 先ほどの入試の説明で全国卒などを設けるとのことだが、例えば韓国に仁川大学があり、仁川国際空港が出来てから大学が充実し、韓国でベスト5くらいに入るような大学になった。その原因の一つには空港があり、国際化ということで大学自らが力を入れ、国際会議などを積極的に誘致するというのもやった。また私の聞いた話では、地元の人にはもともと空港に反対した人も多く、自信がなかったのだが、大学がきちんとしたことを始めたので、自分たちの大学に誇りを持ち始めたという。それが仁川大学が成功した一番の原因であると。空港ではなく、地元の人達が自分たちの大学に誇りを持ち始めたことにより、仁川大学が良くなっていったという話を聞いた。入試について、グローバルに集めるのも、全国から集めるのも良いが、一番肝心なのは、地元の人達が行きたい、若い人達が行きたい、という大学にしないと、なかなか全国から集まるということにはならないのではないかと、という気がする。

それと、もう一つ、今から7、8年位前、経済産業省と文部科学省が協力し、財界の代表の方々と、12大学の代表でこれからの人材をどうするかということの議論があった（平成24年5月「産学協働人材育成円卓会議アクションプラン～日本復興・復活のために～」）。経済界の20社くらいの社長、会長が集まって大学の代表と議論したものである。その中で一番出てきたのは、経済を本当に引っ張っていくのは理工系かもしれないので、理工系の人たちもグローバルな視点を持った人たちがどんどん出てくれば、日本はもっと良くなるのではないかとということである。各企業の社長で、全く理工系のことを知らない人間が経営をしているということに対し、自分のことながら問題だと思っているということであった。欧米の会社では、社長室前の待合室に置かれている雑誌はネイチャーなどの科学雑誌ばかりであり、欧米の経営者はそのような雑誌を読んでいる。日本の経営者は狭いとのことだった。例えばダボス会議など国際的な会議でも、日本人はほとんど発言せず、あれではいけないと。これからは、文系の人でも理系のことがわかり、理系の人も、経営陣になったときには国際的な知識と、語学について理解できる必要があるという話になった。あまりにも万能すぎて難しいと思うかもしれないが、欧米の方は皆そうである。欧米のそれなりの会社の社長は、文とか理とか工とか関係なく、かなり幅広い知識を持っているというようなことを言っていた。だから、科学技術大学でも、あくまでも基礎は科学技術、ということはあるとしても、学生のマインドの中には、もっと広い知識とそのマインドを持ってもらって卒業していくのが望ましいと考える。

【委員長】 中期目標の修正内容について何かご意見はありますか。

【委員C】 的確に修正されていると思う。

【委員B】 修正した箇所、資料2の6ページの安全衛生のところの修正だが、言葉として「安全衛生危機管理」と全部まとめて一つの単語になっているが、「安全衛生及び危機管理」若

しくは「安全衛生管理並びに危機管理」にした方が良いのではないかとと思うが如何でしょうか。

【事務局】今いただいたご意見のように修正したい。

【委員E】資料2の最後のページの数値目標に関する目標で、科研費助成事業に関して、全国採択率以上というのが目標となっている。冒頭で科技大の過去の採択件数等々が説明されたが、平均と現状でどれぐらい乖離があるのか、目標達成のためにどれだけやらないといけないのか、もしわかれば教えていただきたい。

【学長】大体採択率は3割弱程度、全国平均がそれぐらいだと思うが、科技大の応募件数が毎年10件強くらいで、年によってばらつきはあるが、3、4件程度採択されている。数年単位で見ると平均より少し下回っているかもしれない。そんなに大きく離れているとは思わないが。そのため、やはりまずは全国平均の採択率は目指す、というのを目標にしようと考えている。

【委員E】先ほどBとCとあったが、それぞれで平均を目指すのか、科研費の事業という全体の中で目指すのか。

【学長】大体報道されるのは全体の採択率である。やはり件数は金額の低い方が多くなる。細かく見ていけばデータは出ているのだろうが、高い方が率が低いのか、あるいは出す件数にもよるのか、そこはよくわからないが、一般的には全部まとめて科研費1千件のうちトータルは350なので35%とか、そのように報道がされていることから、大体そのベースで考えている。

【委員D】普通は理工系であれば、応募することが半分義務付けられている、という状況ではないかと思うが。

【学長】基本的には専門教育をやっている先生は全員と考えている。また、先ほどの評価のところでも、採択されればもちろんポイントだが、まず応募した段階で差をつける、そういうようなこともやっている。それから、科研費は不採択になった時にも、A、B、Cのような、もう少しで採択だった、落ちた中の平均ぐらいだった、大分下だったというような評価があるので、もう少しで採択だった先生の所には少し研究費を付けて来年は通るようにする、というのをこの1、2年始めている

【委員D】研究費を大学から出しているのか。若い人に対して、研究費を大学が一部負担するという事は考えられるが。国立大学は、大学から研究費というのではないかと思うが。

【委員C】大学全体としてではなく、部局の判断で対応しているところもある。

【学長】さきほど話に出たように、教育と研究は非常に切り分けにくい、一応、先生には最低限の研究機器費、運営経費というのを何十万か出している。また、大学院生がいれば、その人数に応じてまた上乗せして出している。大学院生分として出している部分は、研究費と見れなくはないと思う。

【事務局】先ほど、委員から企業との繋がりということで、その辺も、もう少し目標に入れた方がいいのではないかとのご意見をいただいたが、資料の2の4ページに(2)の産業の振興に関する目標というのがあり、この中に、「市内企業等との連携を進め、共同研究や、

高度な設備・ノウハウの提供を行うとともに」というような文言があり、ここに含めるような形で考えるということでは如何か。

【委員A】 よろしいですよ。具体的にこれから、大学で具体的なことを作る時に何か入れられたらどうか。この中期目標はこのままでよろしいかと思う。

【委員C】 中期計画に入れると良い。

【委員A】 それでいいと考える。

【事務局】 分かりました。

【委員長】 それでは全体的に如何でしょうか。前回と今のご意見等を踏まえて、この中期目標（案）を当委員会の意見として、概ね妥当としていただいて、今ご意見のあった所を事務局で修正するという事でよろしいでしょうか。

（委員各位から了承の返答あり）

そのように進めさせていただきます。修正をした最終案については、私が皆さんの意見が反映されているかチェックをして、最終的な中期目標にし、事務局から皆さんに送付することにしたと思いますが、よろしいでしょうか。

（委員各位から了承の返答あり）

どうもありがとうございました。

議題（3）その他

【事務局】 次回の第4回評価委員会は、中期計画（案）、役員報酬等の支給基準を議題に考えております。中期計画については大学が作成するものですので、大学の方から説明を受けたいと考えていますが、科技大の方の委員会への出席についてご了承お願いしたいと思います。

【委員長】 如何でしょうか。

（委員各位より同意の返答あり）

【事務局】 日程についてですが、当初12月頃に開催したいということでお伝えしていましたが、12月の開催が難しいことから、2月上旬頃の開催を考えています。皆さまのご都合について、改めて確認のご連絡をさせていただきます。また、先ほど中期目標に関して、最終的に委員長に確認いただいてというお話しをいただきました。委員会で皆様にご意見をいただきまして、最終的にこの評価委員会で修正案、最終的な案を作成し、評価委員会としてはこの中期目標案を適当と考えます、というような形で、意見書という形で市に提出をお願いできればと考えております。そのように進めることについて、了承をお願いしたいと思います。

【委員長】 よろしいでしょうか。

（委員各位より了承の返答あり）

それではそのようにお願いします。ありがとうございました。